

# 都市再生整備計画

ゆ かわ ち く だい かい へん こう  
湯の川地区(第2回変更)

ほっかいどう はこだて し  
北海道 函館市

令和6年3月

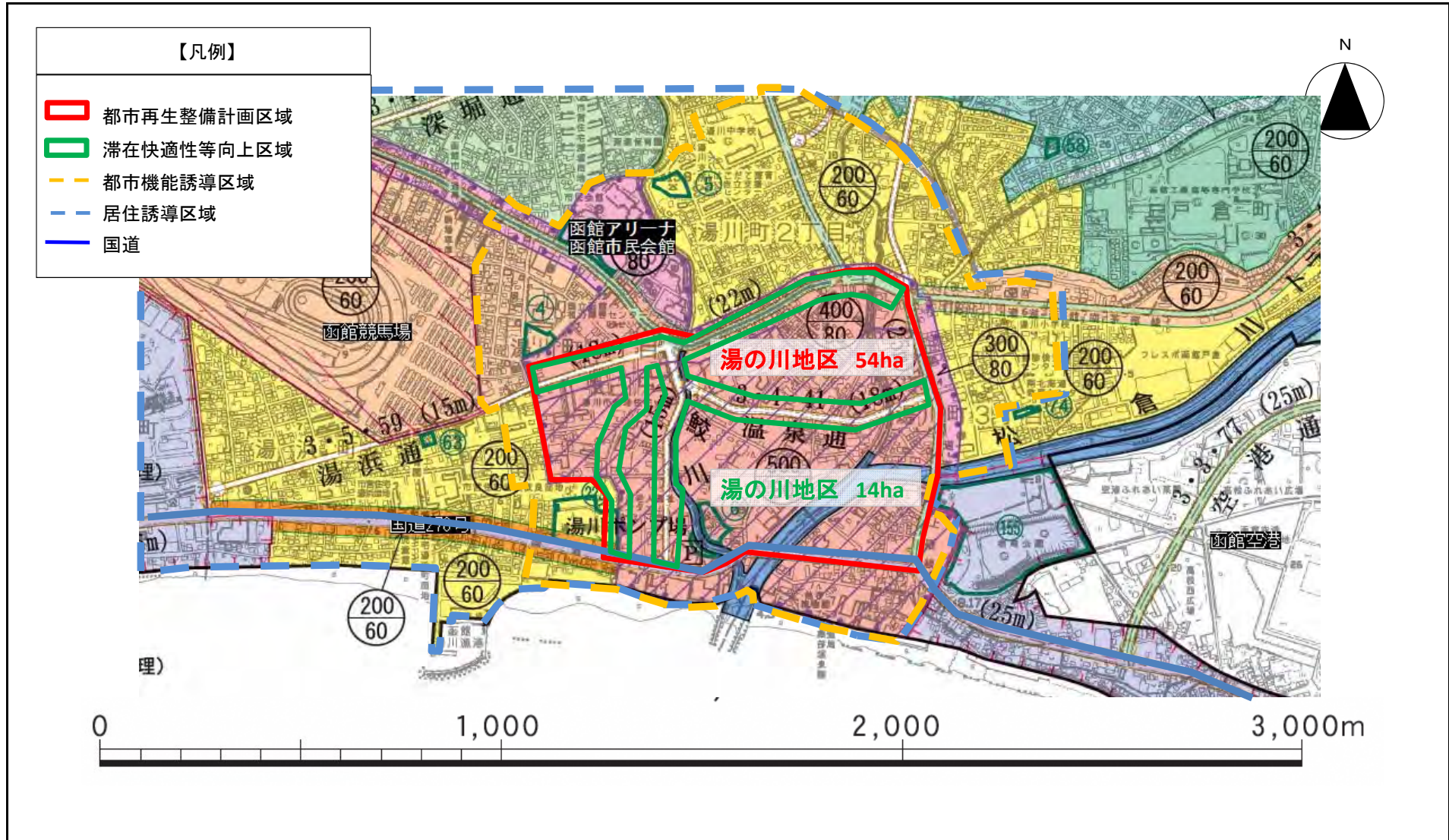
| 事業名                     | 確認                                  |
|-------------------------|-------------------------------------|
| 都市構造再編集中支援事業            | <input type="checkbox"/>            |
| 都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金) | <input type="checkbox"/>            |
| 都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)    | <input type="checkbox"/>            |
| まちなかウォークアブル推進事業         | <input checked="" type="checkbox"/> |



| 計画区域の整備方針  | 方針に合致する主要な事業   |
|--|--|
| <p>【市民と観光客がともに集い、様々な交流が生まれる賑わいのある地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊施設の利用者のほか、函館アリーナや函館競馬場を利用した市民が、まちあるきを楽しめる魅力あるエリアを創出する。</li> </ul>   | <p>【基幹事業】</p> <p>道路(市道中環状通, 市道温泉通, 市道湯浜通, 市道湯川1-25号線)</p> <p>高質空間形成施設(インターロッキングブロック舗装, 照明施設, 植栽)</p> <p>地域生活基盤施設(ポケットパーク, 情報板)</p> <p>事業活用調査(湯の川地区活性化方策検討調査, 事業効果分析調査)</p> <p>【関連事業】: 北海道</p> <p>高質空間形成施設(インターロッキングブロック舗装, 照明施設)</p> |
| <p>【観光客の満足度が極めて高い、おもてなしに溢れる地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちあるきを行う観光客が、段差が少なく、夜間でも足下が明るい歩道で、隣接する川や街路樹などの自然を歩きながら楽しめるような整備を行う。</li> </ul>  | <p>【基幹事業】</p> <p>道路(市道中環状通, 市道温泉通, 市道湯浜通, 市道湯川1-25号線)</p> <p>高質空間形成施設(インターロッキングブロック舗装, 照明施設, 植栽)</p> <p>事業活用調査(湯の川地区活性化方策検討調査, 事業効果分析調査)</p> <p>【関連事業】: 北海道</p> <p>高質空間形成施設(インターロッキングブロック舗装, 照明施設)</p>                               |
| <p>【海外からの観光客も安心して快適に楽しめる地区】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路照明灯がまばらで薄暗く、観光客が安心して歩くことができない現在の道路に、美観を演出する街路樹や観光街路灯を配置し、海外からの観光客も安心して快適に歩くことができるよう整備を行う。</li> </ul>   | <p>【基幹事業】</p> <p>高質空間形成施設(インターロッキングブロック舗装, 照明施設, 植栽)</p> <p>地域生活基盤施設(ポケットパーク, 情報板)</p> <p>【関連事業】: 北海道</p> <p>高質空間形成施設(インターロッキングブロック舗装, 照明施設)</p>   |
| <p>その他</p>   |  |
| <p>【地区の特色】</p> <p>湯の川温泉は、北海道の三大温泉郷の一つで、古くから名湯として人々に親しまれており、エリア内でのイベントとして、湯倉神社で夏祭りや、松倉川河口で花火大会が開催されている。冬のイルミネーションイベント「湯の川冬の灯り」は、川沿いをライトアップし「和」の雰囲気漂うよう、湯の川温泉をイメージした流水と扇の文様や、海や雪、梅や桜など10種類の灯籠円柱モニュメントの設置などが12～2月に開催されており、期間内には、地元グルメやスイーツ、温泉を楽しむまちあるきイベントも開催されている。</p> <p>また、西部地区観光エリアとの移動にも利用できる路面電車停留所「湯の川温泉」も近く、足湯「湯巡り舞台」は地元、観光客問わず利用され賑わっている。</p> <p>地区周辺には、車で5分で行ける函館空港のほか、大規模イベントやスポーツ大会に利用される「函館アリーナ」や、初夏に行われる函館競馬の会場となる「函館競馬場」、など立地条件は良い。</p> <p>【まちづくりの住民参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区内には、「温泉旅館協同組合」「商店街振興組合」等の団体により、温泉夜市や夏祭りなどのイベント開催により、にぎわいの創出に努力している。</li> <li>・代表する夏まつりとして、湯の川温泉花火大会が例年8月に開催されており、多くの人が訪れている。</li> <li>・平成17年度から町内会や団体の協力により「函館沿道花いっぱい道」として沿道美化活動(ボランティアサポートプログラム)が行われている。</li> </ul> |  |



|               |                 |                                       |
|---------------|-----------------|---------------------------------------|
| 湯の川地区(北海道函館市) | 面積<br>54(14) ha | 区域<br>湯川町1丁目の一部, 湯川町2丁目の一部, 湯川町3丁目の一部 |
|---------------|-----------------|---------------------------------------|

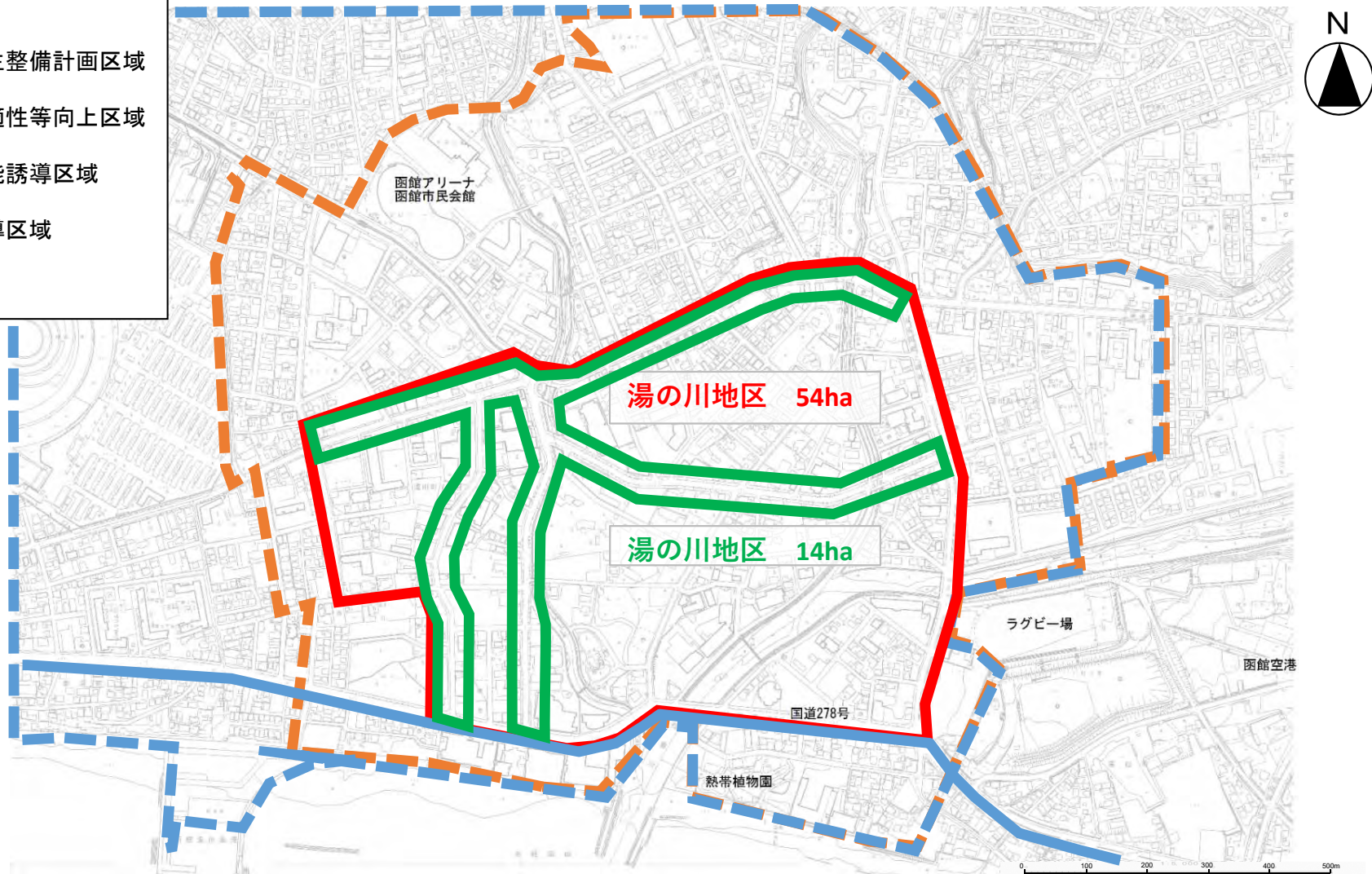


## 湯の川地区(北海道函館市) 整備方針概要図(まちなかウォークブル推進事業)

|    |   |        |                  |     |               |   |              |
|----|---|--------|------------------|-----|---------------|---|--------------|
| 目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民と観光客がともに集い、様々な交流が生まれる賑わいのある地区</li> <li>・観光客の満足度が極めて高い、おもてなしに溢れる地区</li> <li>・海外からの観光客も安心して快適に楽しめる地区</li> </ul> | 代表的な指標 | 函館市観光入込客数の増加     | 人/年 | 526万人 (H30年度) | → | 550万人 (R7年度) |
|    |   |        | 函館市平均宿泊数の増加      | 泊/人 | 1.27泊 (H30年度) | → | 1.28泊 (R7年度) |
|    |   |        | 湯の川温泉の観光入込み客数の増加 | 人/年 | 100万人 (H29年度) | → | 108万人 (R7年度) |
|    |   |        |                  |     |               |   |              |

凡 例

- 都市再生整備計画区域
- 滞在快適性等向上区域
- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域
- 国道



# まちなかウォーカーカブル推進事業事前評価シート

計画の名称:都市再生整備計画「湯の川地区」 事業主体名: 北海道函館市

チェック欄

| I. 目標の妥当性                         |   |
|-----------------------------------|---|
| ①都市再生基本方針との適合等                    |   |
| 1)まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。       | ○ |
| 2)上位計画等と整合性が確保されている。              | ○ |
| ②地域の課題への対応                        |   |
| 1)地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。     | ○ |
| 2)まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い      | ○ |
| II. 計画の効果・効率性                     |   |
| ③目標と事業内容の整合性等                     |   |
| 1)目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。         | ○ |
| 2)指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。       | ○ |
| 3)目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。     | ○ |
| 4)指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。   | ○ |
| 5)地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。    | ○ |
| ④事業の効果                            |   |
| 1)十分な事業効果が確認されている。                | ○ |
| 2)事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。 | ○ |
| III. 計画の実現可能性                     |   |
| ⑤地元の熱意                            |   |
| 1)まちづくりに向けた機運がある。                 | ○ |
| 2)住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。        | ○ |
| 3)継続的なまちづくりの展開が見込まれる。             | ○ |
| ⑥円滑な事業執行の環境                       |   |
| 1)計画の具体性など、事業の熟度が高い。              | ○ |
| 2)交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。   | ○ |
| 3)計画について住民等との間で合意が形成されている。        | ○ |